

【全体概要】

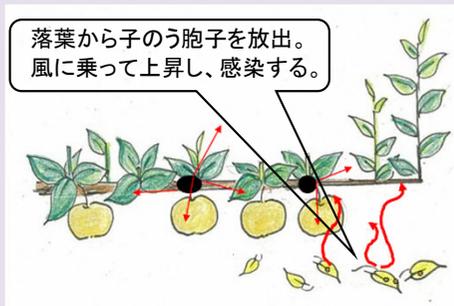
ナシ黒星病とセイヨウナシ褐色斑点病に対する落葉処理を核とする防除技術を現地実証しながら同技術を普及拡大し、日本なしと西洋なしの安定生産を図り、農業者の所得安定化に寄与する。

新品種・新技術等の概要

ナシ黒星病やセイヨウナシ褐色斑点病は秋型病斑を呈した落葉上で越冬し、翌春子のう胞子を放出し感染する。



落葉の秋型病斑



落葉処理の実施

- 残存落葉量を減らすことで、ナシ黒星病の発生は軽減される  
→ 農作業機械を用いて中耕・粉碎をすることで残存量が減る
- 各種落葉処理の連年実施 → 子のう胞子飛散量が年々減少  
ナシ黒星病の初期発生を抑制
- 処理の実施時期 → 完全落葉後(11月下旬頃)～3月中旬まで

主な取組内容

■ 落葉処理(粉碎、粉碎+鋤込み、収集処理)を実施し、ナシ黒星病、セイヨウナシ褐色斑点病及びごま色斑点病の防除効果を確認するとともに、多様なほ場環境における落葉処理技術の適応性について実証試験を行った。



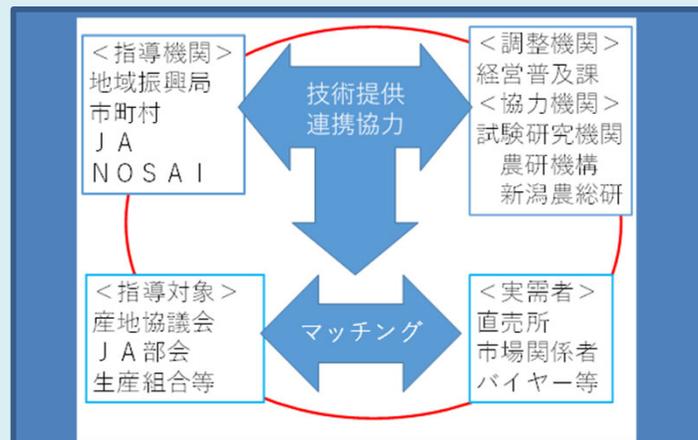
落葉の粉碎処理



ほ場での微気象観測

■ 落葉処理を核とした防除体系の防除効果のエビデンスを得るため、ほ場の微気象、病原菌の胞子飛散量と発病の関係を調査した。

実施体制図



農業革新支援担当が中心となり、普及指導センター、生産者、試験研究機関、JA及びNOSAI等と連携し、事業の取組の調整・進行管理等を行う。  
産地の指導担当機関は、新潟、三条、上越農業普及指導センターが担う。

課題と今後の対応



図 落葉処理が発病に及ぼす影響 (令和3年度 新潟市)



図 落葉処理が胞子飛散に及ぼす影響

落葉処理でナシ黒星病の発病率低下。連年処理による胞子飛散量の減少。

2年目は

- ・ナシ黒星病に対しての落葉処理効果はあると判断 ⇒ 褐色斑点病を中心に。
- ・年内の落葉処理
- 「ルレクチエ」の出荷調整との作業競合
- 冬期間の天候不順による作業性の悪化 ⇒ 消雪後の落葉処理を検討。